

- 発行月 令和5年9月
- 発行 岩手県立中央病院 地域医療福祉連携室 〒020-0066 盛岡市上田1-4-1 TEL 019-653-1151 (代)
- URL <http://www.chuo-hp.jp/>

「地域医療連携推進の基本方針」

1. 顔の見える連携
2. 地域連携パスと逆紹介の推進
3. 紹介患者の迅速予約と優先診療
4. PHSによるDr.Direct Call
5. 24時間救急受け入れ体制
6. 地域医療福祉連携室を通じた地域包括型連携の推進
7. 高額医療機器の共同利用推進
8. 地域医療研修センターの利用の推進

機能分化と連携強化

院長 宮田 剛



生命の危険を伴うと言われた暑い夏もやっと峠を過ぎたようです。皆様いかがお過ごしでしょうか。いつも当院の運営にご協力いただき感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が5月から5類になって以降、世の中が緩和ムードとなり、多くの行事が以前と同じように開催されるようになってきており、大変喜ばしいことです。当院でも7月末に、3年半ぶりに医局会のビールパーティが開催され、楽しい時を過ごしました。密なコミュニケーションのない職場にすっかり慣れてしまったところでしたが、徐々に挨拶をしたり、お礼を言ったり、マスクの無い表情を見ながら自己紹介をしたりすることがこんなにも楽しいことなのかと改めて実感しました。このような会が無かったことによるコミュニケーション不全の環境が原因で引き起こされていた不都合な事象もあったのではないかと思います。ただ、世の中が動き始めると世の中の病気やケガは増え、救急車の受け入れ台数は例年を上回るようになってきています。さらにコロナの第9波も確実にやってきています。沖縄などを中心に西日本では、感染者のピークを過ぎたニュースも聞こえてきていますが、8月末の段階で岩手県はまだ増加の傾向が止まりません。救急疾患、外傷

と新型コロナウイルス感染者が混然となって当院救命救急センターに押し寄せています。

第8波までの反省として、救急医療を診る医療機関と感染症を診る医療機関が重複して集中していたために、病院クラスターなどが出て病棟ロックダウンなどの診療制限がかかると、地域の救急医療やがん治療などにまで影響を及ぼしてしまうという事態がありました。この反省を活かして、その後は、致死率の低くなった新型コロナウイルス感染症を、一般病院でも分散して診ていただき、地域の救急医療を守るという岩手県の方針が周知されました。お陰様で当院から早期に感染患者を転院させていただくことも可能となり大変助かっております。

この新型コロナウイルス感染症に対する地域の医療体制は、その後の他の疾患に関する医療連携に関しても示唆を与えました。当院の果たすべき役割と他院にお任せすべきことがより明瞭に見えてきたように思います。夜間・休日の救急は当院が引き受け、軽症であれば翌日にも他院に転院をお願いするという機能分担と連携は、さらに定着すると良いなと思います。日本一医師偏在指標の低い本県では、地域の連携で医療体制を維持するしかないと感じております。今後ともよりよい連携にご協力のほど、宜しくお願い致します。

産婦人科のご紹介



岩手県立中央病院 産婦人科長 三浦史晴



医療連携において、いつも大変お世話になっております。貴重な症例をご紹介いただいている先生方に、この場を借りて御礼申し上げます。

1. 産婦人科について

私（平成3年卒）が入局したころは、産婦人科は「産科」と「婦人科」の2つの分野だけでしたが、現在では「周産期」「婦人科腫瘍」「生殖内分泌」「女性医学」の4領域に細分化されています。分野がさらに広くなった上にそれぞれに専門医が制定されており、すべての分野でエキスパートであることは難しくなってきました。

その中で、各領域において診療ガイドラインに沿いつつ、一方ではそれにとらわれ過ぎないように留意しながら、日々の診療に当たっております。周産期領域では、本邦において分娩数は減少しておりますが、それと反比例してハイリスク妊婦は増加しています。合併症を有する妊婦さんには当該科と連携を密にして対応し、メンタルヘルス医療としては公認心理師に関わってもらいながら、チーム医療として最善の方向性を選択しております。婦人科腫瘍領域においては、良性疾患では患者さんに負担の少ない治療や低侵襲手術を提示し、がん治療としては手術・抗がん剤・放射線療法を選択肢として治療方針を決定しております。緩和医療をメインとして考えるタイミングでは、緩和医療チームや地域連携部門と情報を共有しながら、残された時間をどう過ごしていく事がご本人にとって望ましいかをご家族とともに傾聴・相談・選択に繋げております。生殖内分泌領域では、体外受精等ART（生殖補助医療）の希望がある際には迅速に専門施設にご紹介するなど、個々の患者さんにとってベストな治療を選択できるような医療を実践していきたいと考えております。



これからもよろしく
お願いいたします。

2. スタッフ紹介

2023年9月時点での常勤医師スタッフは、葛西真由美周産期センター長、産婦人科長三浦史晴、小原剛副医長、深川智之医長、吉田光法医師、亀井あつこ専攻医、菊池悠理乃専攻医の7名で日夜診療に臨んでいます。産婦人科専門医4名、指導医3名がそろっており、産婦人科専門研修プログラム基幹施設としてもその成果をあげています。2019年に基幹施設に認定されてからは、毎年1~2人の専攻医を受け入れており、岩手医科大学と連携しながら、岩手県の産婦人科医が1人でも増えてもらえるように鋭意努力を続けております。

3. これからの方向性

学生に対しては大学教育関連病院として学生教育を行い、研修医においては必修科である産婦人科で有意義に研修できるように配慮し、産婦人科専門研修基幹施設の立場としては産婦人科を目指す専攻医の育成修練に努めております。岩手医科大学附属病院や他の県立病院、診療所との連携を継続して、産科母体搬送や婦人科悪性腫瘍を含め救急患者さんの紹介は24時間体制でお引き受けしていますので、遠慮なくご紹介いただければ幸いです。今後、逆紹介を含めて、さらに風通しを良くした地域連携医療を進めていきたいと考えております。



これからもよろしく
お願いいたします。



今回は、『ブレスト齊藤外科クリニック』をご紹介します！

ブレスト齊藤外科クリニックの齊藤純一と申します。

常日頃から県立中央病院の皆様、特に乳腺・内分泌外科、麻酔科の先生方には大変お世話頂きましてありがとうございます。

当院は平成16年2月16日に本宮に有床診療所として開院し、20年目に入りました。(その年に飼い始めたミニチュアダックスも19歳になりました。ギネスブックに載るように21歳10か月を超えるような長寿を期待していますが…) 当時の本宮地区は現在のようにイオンモールやビルもなく、電話対応で目印と言えば盛岡市立病院と、通りに面した可愛い「団子や」さんだけでした。

当時の盛岡市の構想としては盛岡市立病院の隣に盛岡市役所が移転し、商業地域が展開するというので、道路だけが広い寒々とした場所でしたが、そのことを期待して開業を決意してしまいました。(期待は見事に裏切られたのでした。)

「外科医が開業するなら肛門科しかない。」と常日頃から思っておりました。それが、よりによって乳腺外科を開業するとは。私の大学入局当時は、乳腺に対する診断方法が未熟な時代で良性疾患の乳房を切除されたことがあり、何とかしなければと思ったのが初めです。それが尾を引き乳腺外科で開業までしてしまったのでした。それが大失敗。保



健所に行くと言葉を診療所名に使用してはならぬといひます。やむなくBreast cancerのブレストなら良いと、訳のわからない話。さらに当時の乳がん検診は触診のみ、大枚を支払った高価なマンモグラフィも必要なし。一般の方にはブレストの意味も分かって頂けず、ブレスト(速い、美容院にあり)さんですか？平泳ぎから来た呼吸器科さんですか？ですって。同級生のアドバイス通りでした。乳腺外科では食っていけないぞ、と。乳癌の患者様もそんなに多くなかった時代、盛岡初の開業医倒産のレッテルが目前でした。それでも支援して頂いた方のお蔭でなんとかやってきました。

乳癌患者様を自分で手掛けて最後まで看るという当初の目標は崩れ、自院や盛岡友愛病院のお世話で行っていた乳癌の手術と入院を止めて、乳癌の発見と逆紹介頂いた患者様の経過観察をメインに診療を細々と行っております。

ここ数年は、乳癌の症例が年に90例ほど見つかるようになり、約50症例の方を岩手県立中央病院の乳腺・内分泌外科にご紹介し、加療をして頂いております。心から感謝申し上げます。あとは、もっと患者さんを逆紹介して頂けるような信頼されるクリニックを目指して精進してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。



住所	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮6丁目17-6							
TEL / FAX	TEL 019-631-3770				FAX 019-631-3771			
診療科目	乳腺外科・外科・内科・皮膚科・肛門外科							
受付時間	9:00~12:30	●	●	●	●	●	●	休
	14:00~17:30	●	休	●	●	●	休	休
休診日	日曜日・祝祭日							



皮膚・排泄ケア認定看護師の活動紹介

皮膚・排泄ケア特定認定看護師 十文字晴美

皮膚・排泄ケア認定看護師とは、『スキンケア技術』を基盤とし、「褥瘡(床ずれ)などの治りにくいキズを持って
いる方のケア」「ストーマのケア」「失禁のある方のケア」を専門分野として看護ケア技術・知識の提供を行う看護
師です。

岩手県では現在、33名の皮膚・排泄ケア認定看護師が活動しており、当院には私を含めて2名在籍しており、
2人で協力しながら患者さんへのケア提供をしています。

< 院内での活動 >

私は令和4年度から当院配属となり、主に「褥瘡管
理」に関することを担当しています。具体的には、褥
瘡予防のために必要な環境の整備や体制づくり、ス
タッフ育成や褥瘡回診の運営等です。

「褥瘡」は生活の中でできるキズです。そのため、
褥瘡を治すためにはキズの処置方法だけでなく、患
者さんの病状、動ける程度や過ごしていた療養環境、
食事や入浴の状況等、様々な視点から原因をアセス
メントし、ケアを検討することが必要です。患者さんに
必要なケアを見出すためには、多職種とのコミュニ
ケーションが非常に大事だと感じています。キズだけ
に捉われず、患者さんの全体像を看ながらケアが実
施できるよう、褥瘡対策チームの一員として活動を続
けています。

また、当院に入院する患者さんが、治療と
関係のない創傷を入院中につくらないような
病院を目指すことも、私の大事な使命だと
思っています。最近では、「ちょっとぶつかった
ら皮膚がさけた」というような『スキン-テア』
というキズも話題です。人は年齢を重ねるに
つれて皮膚が薄くなるため、キズができやす
い状況となります。『キズを予防すること』を
大事に考えながら看護が実現できるよう、院
内での活動を続けていきたいと思えます。

< 院外に向けた活動～専門・認定看護師相談室～ >

当院では、令和4年度より『専門・認定看護師相談室』
を開設しました。地域で医療・介護・福祉に携わっている
方々がケアに困った際に少しでもお手伝いできれば、
という当院認定看護師の強い思いからです。皮膚・排泄
ケア分野に限らず、相談をお受けしています。

日頃抱えている困りごとに加え、研修会等のご相談
にも対応していますので、どうぞお気軽にご相談下さい。

< 最後に >

皮膚・排泄ケア認定看護師として様々な患者さんと
の出会いがあります。いつでも患者さんを「治療」と「生
活」の両面から捉え、患者さんの生活が少しでも快適に
なるようにサポートをすることを心掛けていきたいと思
います。

褥瘡対策チームメンバー



私たちにお任せください！